

平成29年度 事業計画書

【第5期】

平成29年度

自：平成29年4月 1日

至：平成30年3月31日

公益財団法人 日本漢字能力検定協会

平成29年度 事業計画書 目次

| | 頁 |
|------------------------------|------|
| I. 本年度の基本方針 | ・・・1 |
| II. 事業及び活動の計画 | |
| 1. はじめに | ・・・1 |
| 2. 普及啓発・支援活動 | ・・・1 |
| (1) 漢字博物館・図書館（漢字ミュージアム）の運営 | ・・・1 |
| (2) 機関誌の発行 | ・・・2 |
| (3) 漢字文化啓発イベント | ・・・2 |
| (4) 助成 | ・・・2 |
| (5) 支援活動 | ・・・2 |
| 3. 調査・研究活動 | ・・・2 |
| (1) 漢字文化研究 | ・・・3 |
| (2) 日本語・漢字教育研究 | ・・・3 |
| 4. 日本語能力育成活動 | ・・・3 |
| (1) 日本漢字能力検定（漢検） | ・・・3 |
| (2) B J Tビジネス日本語能力テスト（B J T） | ・・・4 |
| (3) 文章読解・作成能力検定（文章検） | ・・・5 |
| (4) 学習支援講座 | ・・・6 |
| (5) 教材の発行 | ・・・6 |
| III. その他 | ・・・7 |

事業年度：平成29年4月1日～平成30年3月31日

I. 本年度の基本方針

伝統ある日本文化の発展の過程において、日本語・漢字は、文化の伝達と進展を根幹で支えてきました。公益財団法人 日本漢字能力検定協会は、社会生活に必要な日本語・漢字の能力を高め、広く日本語・漢字に対する尊重の念と認識を高めるとともに、我が国における生涯学習（※）の振興を通して日本文化の発展に寄与することを目的としています。この目的を達成するために、昨年5月には本部機能を京都市の元弥栄中学校跡地に移転し、同年6月29日には「漢検漢字博物館・図書館」を開館しました。本年度も本邦及び海外において次に掲げる事業を行い、日本語・漢字を学ぶ楽しさを提供し、豊かな社会の実現に貢献します。

（※）改正教育基本法第三条「生涯学習の理念」（全文掲載）

国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。

● 事業

- （1）日本語・漢字に関する普及啓発・支援
- （2）日本語・漢字に関する調査及び研究
- （3）日本語・漢字に関する能力育成
- （4）その他この法人の目的を達成するために必要な事業

II. 事業及び活動の計画

1. はじめに

我が国における生涯学習の振興と日本文化の発展に寄与するため、「普及啓発・支援活動」「調査・研究活動」「日本語能力育成活動」を柱として、これらの活動が有機的に結びついた相互補完的な関係を保ちながら一つの事業として相乗効果を発揮し、あらゆる人々の日本語・漢字の理解・運用能力の向上に向けた“学び”を支える活動を積極的に展開します。

2. 普及啓発・支援活動

社会生活に欠かせない日本語・漢字に対する興味関心と尊重の念を抱き、生涯にわたって学習する動機付けや、言語生活が豊かに育まれる環境を整備するため、次に掲げる（1）～（5）の手段により、普及啓発・支援活動を行います。

（1）漢字博物館・図書館（漢字ミュージアム）の運営

日本語・漢字に対する興味関心を高め、不特定多数の人々の学びの動機付けや促進につながることを目的に、漢字に関する情報の収集や発信、展示を通して、漢字の“面白さ”“楽しさ”“奥深さ”を体感しながら学べる漢字ミュージアムを運営します。

本年度の来館者数は10万人を見込んでいます。

①開館時間：午前9時30分～午後5時

②休館日：毎週月曜日（休館日が休祝日の場合は翌平日に振替）・年末年始

③入館料：

| 大人 | | 大学生・高校生 | | 中学生・小学生 | | 未就学児 | 障がい者 |
|------|------|---------|------|---------|------|------|------|
| 個人 | 団体 | 個人 | 団体 | 個人 | 団体 | | |
| ¥800 | ¥700 | ¥500 | ¥400 | ¥300 | ¥200 | 無料 | 無料 |

*団体は20名以上（団体引率者は10名につき1名免除）、障がい者の介護人（1名）免除

○割引・特典制度

・修学旅行・課外学習グループ割（2名以上のグループ1名につき100円引）

- ・小中高生1名以上と同伴している大人1名につき300円引（2名まで）
 - ・年間パスポート（発行日から1年間有効）
大人¥2,500　大学生・高校生¥1,600　中学生・小学生¥1,000
- ④ワークショップ・講座・講演会の実施
漢字学習をテーマとしたワークショップや講座、講演会等を実施。約1,000名の受講者を見込んでいます。

（2）機関誌の発行

日本語・漢字に対する興味関心を高め、学びの促進や検定受検につながるよう、学習者・保護者・教員をはじめ、一般向けに無料の機関誌『漢検ジャーナル』を年間3回発行します。また、機関誌の記事や関連情報を広く発信するためのWebサイト「漢字カフェ」を運営します。

（3）漢字文化啓発イベント

① 「今年の漢字」

広く一般の人々に漢字の持つ奥深さ、素晴らしさを再認識してもらうため、年末に全国から「その年の世相を表す漢字一字」とその理由を募集し、最も票数の多かった漢字を「今年の漢字」として京都清水寺貫主の揮毫により発表します。本年も11月1日から応募を開始し、12月12日に発表する予定です。

② 「第5回 今、あなたに贈りたい漢字 コンテスト」

大切な人へ想いをこめた漢字とメッセージを贈るコンテストを実施し、全国から作品を募集します。

応募作品の中から、大賞・協会賞・審査員特別賞・佳作を審査選考し、ホームページを通じて発表するとともに、年度末に授賞式を開催します。また、入賞作品を作品集としてまとめ、全国の小学校・中学校・高等学校等に贈呈します。

[参考] 第4回（平成28年度）応募総数46,311作品

（4）助成

日本全国における漢字学習の振興を目指し、各地域の団体が行う漢字学習の振興に寄与する活動に対して、活動費用の一部を助成します。

（5）支援活動

経済的、環境上の理由により、検定の受検や漢字学習が困難な児童生徒に対し、漢字検定の受検機会や学習教材を無償で提供する等の学習支援を行います。

- [対象]
- ・義務教育段階における要保護世帯の児童生徒
 - ・厚生労働省の定める児童自立支援施設・児童養護施設・情緒障害児短期治療施設に在籍する児童生徒
 - ・東日本大震災で被災した児童生徒

[参考] 平成28年度 無償受検利用者数（平成29年2月3日現在）

- ・要保護世帯児童生徒 1,053名
- ・自立支援 2,295名、養護施設・情緒障害児短期治療施設 4,042名
- ・東日本大震災の被災地支援 12,527名

3. 調査・研究活動

漢字ミュージアムの開館とともに設立した漢字文化研究所では、漢字ミュージアムの展示やワークショップ等の企画を行うとともに、日本の漢字を日本文化の側面から詳らかにする調査研究や日本語教育・漢字教育及びそれぞれの検定・テストの質的向上に資するため、次の（1）～（2）の2部門で調査研究を行います。

（1）漢字文化研究

- ① 顕彰（漢検漢字文化研究奨励賞）
漢字研究、漢字に関わる日本語研究、漢字教育等、広く漢字文化に関わる分野における優れた学術的研究論文・調査報告等に対し、漢検漢字文化研究奨励賞を贈って顕彰・奨励します。
- ② 日本漢字学会の設立準備
漢字文化を多岐にわたって研究する学会を設立するため、日本語・漢字研究者および有識者による発起人会を開催します。
- ③ 日中韓共通漢字語彙集（仮称）の編纂協力
日中韓三国協力事務局（韓国・ソウル）が企画する「日中韓共通漢字語彙集（仮称）」の編纂に協力し、東アジア地域における漢字文化の振興に貢献します。
- (2) 日本語・漢字教育研究
- ① 研究助成（漢字・日本語教育研究助成制度）
日本語・漢字教育の質的向上に資することを目的に、学校教育法に定める各学校の教職員、およびこれらの教職員で構成される研究会等が行う漢字・日本語教育の研究活動に対し、活動費を助成し、意義ある教育活動を社会に公表します。
- ② 漢字語彙調査
検定問題や学習教材のさらなる充実のため、各種辞典の調査と語彙の分類を行います。
- ③ 漢字・日本語学習に関する学際研究
京都大学との共同研究により、協会が保有する膨大な手書き文字データを分析し、漢字の適切な使い方や文章力の向上に資する学習支援システムの構築を目指します。また、現代人にとって漢字学習がいかに有効かつ重要であるかを科学的に解明するための学際研究を行います。

4. 日本語能力育成活動

日本語・漢字に興味関心を持った人々に学習する機会を広く提供するため、講演会、研修会、セミナー、教材の発行等を行います。また、学習の達成度を測る検定試験を実施し、能力の定着と伸長を図り、さらなる学習意欲を喚起します。

(1) 日本漢字能力検定（漢検）

単に漢字を「読む」「書く」という知識量のみを測るのではなく、漢字の意味を理解し、文章の中で適切に使える漢字能力を測定するための検定を実施します。

① 実施日

| 回 | 公開会場日程 | 対象級 | 準会場日程 | 対象級 |
|-----|----------------|-------|----------------|-------|
| 第1回 | 平成29年6月18日（日） | 1～10級 | 平成29年6月3日（土） | 2～10級 |
| | | | 平成29年6月16日（金） | 2～10級 |
| | | | 平成29年6月18日（日） | 2～10級 |
| | | | 平成29年7月14日（金） | 2～10級 |
| 第2回 | 平成29年10月15日（日） | 1～10級 | 平成29年8月22日（火） | 2～10級 |
| | | | 平成29年10月15日（日） | 2～10級 |
| | | | 平成29年10月20日（金） | 2～10級 |
| | | | 平成29年10月28日（土） | 2～10級 |
| | | | 平成29年11月10日（金） | 2～10級 |

| | | | | |
|-----|--------------|-------|---------------|-------|
| 第3回 | 平成30年2月4日(日) | 1～10級 | 平成30年1月18日(木) | 2～10級 |
| | | | 平成30年1月27日(土) | 2～10級 |
| | | | 平成30年2月4日(日) | 2～10級 |
| | | | 平成30年2月9日(金) | 2～10級 |

② 志願者数予測

| 級 | 人数 | 級 | 人数 | 級 | 人数 |
|-----|----------|----|----------|-----|------------|
| 1級 | 4,200名 | 3級 | 489,200名 | 7級 | 121,500名 |
| 準1級 | 15,300名 | 4級 | 254,700名 | 8級 | 121,000名 |
| 2級 | 169,000名 | 5級 | 233,600名 | 9級 | 105,100名 |
| 準2級 | 301,300名 | 6級 | 126,500名 | 10級 | 88,600名 |
| 合計 | | | | | 2,030,000名 |

③ 検定会場・会場数予測

- ・ 個人受検（公開会場）
全国47都道府県の主要約130都市（約180会場）
- ・ 団体受検（準会場）
団体申し込みの学校・企業等（約20,000会場）
- ・ CBT受検（公開会場・準会場）
全国47都道府県の公開会場（約150会場）や準会場（約300会場）

④ 検定料

| 級 | 検定料 |
|--------|--------|
| 1級 | 5,000円 |
| 準1級 | 4,500円 |
| 2級 | 3,500円 |
| 準2級～4級 | 2,500円 |
| 5級～7級 | 2,000円 |
| 8級～10級 | 1,500円 |

⑤ 各種表彰制度

受検者の学習意欲の向上を目的として、「満点賞」「家族受検表彰」「団体内表彰」を引き続き実施します。また、広く漢字学習に取り組んでいる人の努力を賞し、励みとする目的で、年度末に成績優秀な個人および団体を表彰する「成績優秀者表彰式」を開催します。

(2) BJTビジネス日本語能力テスト(BJT)

文法・語彙・漢字等の言語知識があることを前提とした上で、それらを活用し、与えられた情報に対処できる、日本語によるビジネス・コミュニケーション能力を客観的に測定するテストを実施します。本年度4月より、実施形式が従来のPBT(Paper Based Testing)からCBT(Computer Based Testing)に移行します。

① テスト実施日

テスト会場の開設日時に応じて随時受験可能

② 志願者数予測

| 実施地 | 人数 |
|-----|--------|
| 日本 | 3,500名 |
| 海外 | 3,800名 |
| 合計 | 7,300名 |

- ③ 受験料 6,999 円（税込、日本国内）
海外での受験の場合は、各国・地域で定めた受験料

- ④ 問題数と時間 80 問 約 120 分

- ⑤ 実施地

日本：19 都市 21 会場

海外：東アジア、アセアンなど 14 の国／地域 41 会場

（3）文章読解・作成能力検定（文章検）

社会で必要とされる文章能力の養成を目標として、日本語の文章能力を基礎力・文章読解力・文章作成力の各側面から測る検定を実施します。本年度より、公開会場でも実施します。

① 実施日

| 公開会場日程 | 対象級 | 準会場日程 | 対象級 |
|--------------------|-------|----------------------|---------|
| 平成 30 年 2 月 4 日（日） | 2～4 級 | 平成 29 年 8 月 22 日（火） | 準 2～4 級 |
| | | 平成 29 年 10 月 27 日（金） | 2～4 級 |
| | | 平成 29 年 11 月 11 日（土） | 準 2～4 級 |
| | | 平成 30 年 1 月 25 日（木） | 準 2～4 級 |
| | | 平成 30 年 2 月 4 日（日） | 2～4 級 |
| | | 平成 30 年 2 月 17 日（土） | 準 2～4 級 |

② 文章読解・作成能力テスト

各団体において、受検者の実力を測り、指導に役立てられるよう、上記実施日以外の任意の日時・場所で実施することができる能力判定テストを提供します。

③ 志願者数予測

20,000 名

④ 検定会場・会場数予測

- ・個人受検（公開会場） 東京・大阪の 2 会場
- ・団体受検（準会場） 団体申込の学校・企業等（約 500 会場）

⑤ 検定料

| 級 | 検定料 |
|-------|---------|
| 2 級 | 4,000 円 |
| 準 2 級 | 3,000 円 |
| 3 級 | 3,000 円 |
| 4 級 | 2,000 円 |

（4）学習支援講座

① 漢字日本語講座

日本漢字能力検定の上位級（1 級・準 1 級）の合格者に、自らの漢字の知識を社会貢献に生かし、普及啓発のリーダー的役割を担ってもらうため、希望登録制の「漢検生涯学習ネットワーク（本年度会員数約 8,700 名）」を組織しています。会員を対象に専門的知識と能力育成のための研修会を開催するほか、「漢字教育サポーター育成講座」を開催し、漢字日本語講座の講師を養成します。さらに一定の専門的知識を有している方のプロフィール

をホームページ等で公開し、広く漢字日本語講座の開催を支援します。

＊「漢検生涯学習ネットワーク」

会員の専門的知識と能力育成を目的に、会員向けの通信を年3回発行（ホームページでも公開）するほか、専門家の講義および会員の研究発表を行う研修会を、年間3回開催します。

＊「漢字教育サポーター育成講座」

立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所が主催する「漢字教育士」講座のカリキュラムをもとに、協会と同研究所で共同開発したインターネット通信講座を、全国の漢検生涯学習ネットワーク会員に提供します。

② 学習支援セミナー

日本語・漢字の能力の着実な習得や伸長を図るため、有用な学習法、指導法等の提案、情報提供を行う学習支援セミナー（参加無料）を開催します。

(5) 教材の発行

広く一般の人々に対し学習の機会を提供する手段として、教材や参考書を発行し、全国の書店や教育現場を通じて提供します。

① 検定・テストに対応するもの

日本語・漢字の運用能力を向上させるために、検定試験の各級に対応して学習するものや分野別に学習する教材を提供します。

◇既存教材の提供

[漢 検] 11シリーズ 78種類

[B J T] 2シリーズ 2種類

[文章検] 2シリーズ 2種類（新刊1点含む）

◇新商品の提供

文章作成能力を育成する教材、日本語学習者向け教材

② 日本語・漢字への興味関心を喚起するもの

小学校に入る前の幼児から学生、社会人や高齢者までが、生涯にわたって様々な学習を継続する上で基礎となる漢字・日本語に興味関心を引くことのできる学習コンテンツを提供します。

◇既存商品の提供

『いちまるとはじめよう！わくわく漢検』種類

『にっぽんのカイシャ』

『漢検漢字辞典第二版』

『四字熟語辞典第二版』

漢字検索サイト「漢字ペディア」の充実

＊漢検漢字辞典第二版のデータをもとに、無料公開しているサイト

◇新商品の提供

漢字への興味関心を喚起する絵本

③ デジタル教材

スマートフォンやタブレット、ゲーム機器などを活用した漢字学習教材をソフトウェアメーカー各社と共同開発し、コンテンツを提供します。

[参考]平成28年度 3社4種（漢検）

Ⅲ. その他

民事訴訟

元正副理事長 2 名および関連 4 社の計 6 者に対し、不当利得の返還および損害賠償を求めている訴訟に関して、平成 29 年 1 月 12 日に京都地方裁判所において当協会の主張がほぼ全面的に認められました。今後は上級審にて審理されますが、最終的な解決に向けて引き続き適切に対処します。

以上